

松野さんの うらそえ おすすめスポット

【蕎麦と肴処 和ノ実】

沖縄では珍しい本格日本蕎麦がいただける「和ノ実」。毎日手打ちしている蕎麦と、沖縄県産かつお節を含む4種類をブレンドした奥深い蕎麦つゆの“こだわり日本蕎麦”に出会えます。キッズスペースもあり、大人から子どもまで楽しめます。



1 外人住宅を改装したモダンな店内。2 素材そのものの味を楽しめる人気のかき揚げ。3 夜は日本酒のシメに温かいかけ蕎麦を食べるのがオススメ。

特におし、



日本蕎麦だけではなく、かき揚げも美味しいんです！

ざる蕎麦
かき揚げセット
1280円



店舗情報

- 住所 浦添市港川330-5
- 電話 ☎(943) 7712
- 定休日 水曜日
- 営業時間
【昼】午前11時30分～午後2時30分
【夜】午後5時30分～午後10時
※火曜日は昼のみ営業
- 公式サイト
<https://wanomi.owst.jp/>



“うらそえWORKER” 募集しています！

あなたの周りのうらそえWORKERを募集中です。自薦・他薦は問いません。メールまたはハガキに氏名、年齢、職場名、連絡先、PRポイントを記入の上、国際交流課広報応募係までお送りください。

【送付先】
〒901-2501 浦添市安波茶1-1-1
浦添市役所 国際交流課
E-mail:kouhou@city.urasoe.lg.jp

▼応募フォーム



1 香炉や花瓶、照明、小物入れなど、種類も豊富なら色も多彩です。2 焼き窯に詰め込まれた素焼き前の作品たち。3 楽しそうに作っていますが、己を甘やかさないように意識しているとか。



仕事もプライベートも含めた、人生楽しむ秘訣！

松野さんに3つの質問

Q1 休みの過ごし方やリラックス方法は？

A 普段から頭の中はやきものことでいっぱいです。最も好きな時間は、風が気持ちよい夜に香を焚き、間接照明の中で音楽を聴きながらお酒を飲むこと。作品の源泉はここからきてと思います。

Q2 あなたにとって「浦添市」とは？

A すれ違う子どもたちに「こんにちは」と挨拶をされて、驚きと幸せな気持ちになったことを覚えています。私が“天使の行進”と呼んでいる、園児たちの散歩をよく見かけますが、子どもが多い街は、子育てをしやすい環境であり、好感を持っています。ただ、カーミージーの海岸を含め、ごみのポイ捨てなどが多いのが残念です。各々が行動を律することと、市にも教育や指導をお願いしたいですね。

Q3 好きな言葉は？

A 「極められなくても、追い続けることは幸せ」「勉強は、事を成すためではなく、人を成すためにすること」
(顔世謙・唐代の政治家顔真卿の子孫)
「人は未完のままで生まれて、未完に生きて、未完のまま死ぬのだから、作品は未完で良いのでは？」
(横尾忠則・グラフィックデザイナー)



うらそえ WORKER

浦添で働く人

vol.3

「やきものの作家」

陶房 然庵 (本名:松野 直人さん)

まつのぜん
松野 然さん (56歳)

会社勤めからやきもの世界に。
珊瑚砂を含んだ作品で癒しの空間を作る。

この仕事を始めたきっかけは？

もともと器が好きだったので、老後の趣味にと思い、50歳を過ぎてから半年ほど陶芸教室に通っていました。東京から沖縄に移住することを計画したとき、仕事の選択肢の一つとして自作の器を販売することにチャレンジしたいと思ったのがきっかけです。

ずっと無難な道を選んできましたが、急に「やらずに後悔するより、やって失敗した方がいい」と思い至り、30年勤めた会社を退職しました。人生最大の冒険に踏み出してしまったことに自分でも驚いています。

仕事の準備としては、最低限必要な設備の購入、市販の陶土のほか、釉薬や化粧土などを百種以上購入しました。半年間の教室通いのほかは独学なので、求める質感や色合いのために色々試し、自分の作風、作品のコンセプトを見つけるために自問自答しながら、2年間思い詰めたものを作ることを繰り返しました。

どのような作品ですか？

県から許可を得て採取したカーミージー(港川)の珊瑚砂を練りこんだランプやキャンドルホルダー、香炉、一輪挿し等を電気窯で制作して販売しています。

す。灯り、香り、草花等で空間に彩りと癒しを添えることができるような作品づくりを心掛けています。始めたばかりですが、イベント出店やネット通販のほか、県内外の数か所の販売店でも取り扱いいただいています。

東京からの移住に「浦添市」を選んだ理由は？

20年ほど前から沖縄へ観光に通い、将来は移住すると決めていたので、数年かけて移住先の住居を探そうと考えていました。ところが、物件探し初日の内見で即決したのが浦添市の物件でした。同行してくれたウチナーンチュウの友人から「あの部屋は気が良い、方角が良い」という言葉もあり、実際に部屋からは海が見え景観が素晴らしい、風も心地良くすぐに気に入りました。

やりがいは？

創作に満足というのは滅多にありませんが、生みの苦しみがあっても、イメージ通り、またはそれ以上のものが焼き上がると嬉しいですね。お客さんや友人から製作を依頼され、自分なりの解釈で作陶した作品をお客さんが喜んでくれた時や、実際に使用している場面を見たときは、とても嬉しくもあり安堵します。